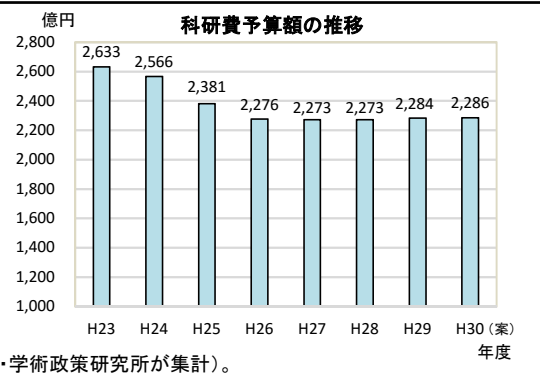


背景・課題

- ・国際的な研究力競争の激化、科研費をはじめとする資金需要の増大
- ・研究環境の劣化(基盤研究費の縮減、研究者の独立基盤の脆弱化)
- ・研究者の研究テーマの短期志向、リスク回避傾向

【未来投資戦略2017における記載】
 科学研究費助成事業の安定確保・充実強化のため、「科研費改革の実施方針」(平成29年1月27日改定)に基づき、「科研費審査システム改革2018」や「科研費若手支援プラン」の実施等を通じた改革を本年度から進める。



- ✓ 科研費は、我が国の産出論文の質・量の両面で牽引(※)するなど、イノベーションの源泉である「学術研究」を支援。
- ✓ 科研費改革の実施に当たっては、制度の「質の向上」と「量の充実」の一体的強化が不可欠。

※科研費関与論文中のTop10%論文の割合は約10%で科研費非関与論文の割合(約7%)を大幅に上回り、産出数も我が国の産出数の約60%を占める(Web of Science XMLを元に科学技術・学術政策研究所が集計)。

事業概要

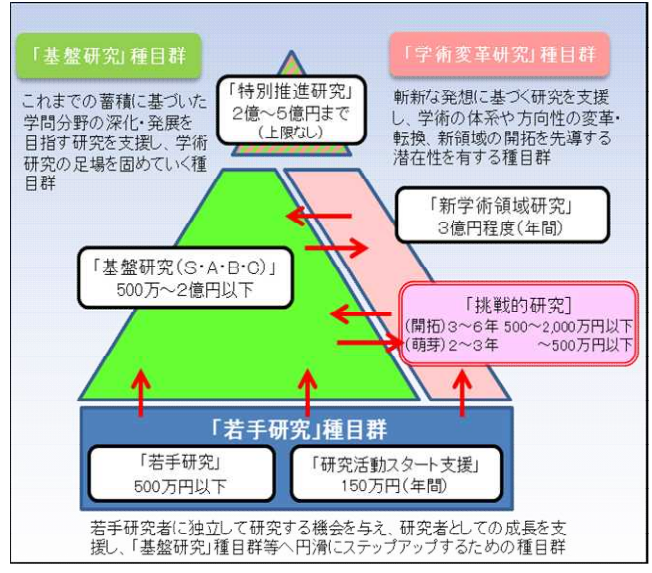
- 人文学・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的資金」。
- 中核的研究種目の充実を通じた「科研費若手支援プラン」の着実な実行や国際共同研究の一層の強化を図る。また、審査区分の大括り化など競争性を高める審査システム改革をはじめとする科研費改革の全面展開により、助成対象の更なる質の向上を図る。

【平成30年度事業の骨子】

平成30年度は、これまで検討を進めてきた「審査システム改革」及び「研究種目・枠組みの見直し」を中心とした「質の向上」と以下の取組を強化することにより、科研費改革を着実に推進する。

- ① 「科研費若手支援プラン」の実行により、若手研究者のキャリア形成に応じた支援を強化しつつ、オープンな場での切磋琢磨を促す
 - ✓ 若手研究者の基盤形成を幅広く支援するため、「若手研究」を充実。
 - ✓ 国際競争下で研究の高度化に欠かせない、より規模が大きい「基盤研究(B)」の充実。
- ② 「国際共同研究加速基金」の発展的見直しによる国際共同研究の推進
 - ✓ 「海外学術調査」の対象等の見直しによる国際共同研究の強化。
 - ・ 調査等に限らず研究対象を一般化し、国際共同研究を更に促進。
 - ・ 応募総額:2,000万円程度、研究期間3~6年。
 - ・ 若手研究者の研究組織への参画等を要件として、海外研究者との共同研究基盤の強化や新たな課題探索等を支援。

【科研費の研究種目体系】



【審査システム改革のポイント】

- 「審査区分」と「審査方式」の一体改革**
- ✓ 新たな「審査区分表」を作成(審査区分の大括り化)
 - ・ 「小区分」306(現区分の約3割減)
 - ・ 「中区分」65
 - ・ 「大区分」11
 - ⇒ 自由な発想に基づくテーマ設定及び分野間の競争・連携を促進。
 - ✓ 「総合審査」の導入(審査の質の向上)
 - ⇒ 合議を重視し、分野のカベを超えた多角的審査を行う「総合審査」の導入。